

科目名： <UGS002> 日本国憲法
担当教員： 山口 明子(YAMAGUCHI Akiko)

【授業の紹介】

日本国憲法の最大の目的である個人の尊厳や人権について理解を深め、憲法を頂点とする法体系が、私たちの日常生活にどの様に関連しているのかを解説する。さらに、受講生自身がアクティブラーニングを通して憲法の意義や重要性を考え明確にしていく。また、上記のような講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- ・ グローバル化する国際社会の中で、大切なキーワードとなっている人権について理解を深め、正しい知識を習得する。
- ・ 憲法を学ぶことで、受講生自身が市民社会の一員であることを自覚し、より良い自己や社会の実現につなげていくための知恵や力を身に着けることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 人権を考えるための基礎知識
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 幸福追求権
- 第4回 法の下での平等
- 第5回 思想・良心の自由
- 第6回 信教の自由・政教分離
- 第7回 表現の自由
- 第8回 職業の自由
- 第9回 学問の自由・大学の自治
- 第10回 生存権
- 第11回 教育を受ける権利
- 第12回 労働権
- 第13回 財産権
- 第14回 移動の自由・奴隷的拘束からの自由・法定手続の保障・裁判を受ける権利
- 第15回 選挙権

【授業時間外の学習】

授業の予習・復習(2時間/週)。社会問題や身近な社会事象について、積極的に関心を持ち、新聞やニュースから情報を取り入れる(2時間/週)。これらを憲法的・人権的観点から分析する訓練をする。

【成績の評価】

定期試験40%、平常点(小テスト、コメント票、授業態度など)60%で総合的に評価する。レポート・小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

宍戸 常寿(著, 編集)『18歳から考える人権』法律文化社(2015)等

科目名： <UCI102> 情報基礎演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI102> 情報基礎演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ関係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ関係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UHH001> 健康とスポーツ
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深める。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
 - 第2回 健康を取り巻く環境についての理解
 - 第3回 健康情報とヘルスリテラシー
 - 第4回 幼少期～成長期の健康問題
 - 第5回 成人期～高齢期の健康問題
 - 第6回 死生観と生命倫理
 - 第7回 健康と運動・労働
 - 第8回 健康と食事・栄養
 - 第9回 健康と休養・睡眠
 - 第10回 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康
 - 第11回 運動の科学と健康
 - 第12回 体力の評価と分析
 - 第13回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり
 - 第14回 持続可能な健康づくり
 - 第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・出席確認のためのミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜資料を配付する。

科目名： <UHH002> 健康とスポーツ実習【発A】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironmu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、「解釈」概念から文化を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技（アルティメット）ならびにバドミントンを題材として、スポーツの楽しさを理解したり、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 「解釈」概念からスポーツの文化性を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文化の概念およびその表現
 - 第3回 新スポーツの企画
 - 第4回 ルールの考案
 - 第5回 発表と実践（1）：グループA
 - 第6回 発表と実践（2）：グループB
 - 第7回 アルティメット（1）：楽しさに触れる
 - 第8回 アルティメット（2）：楽しさを表現する
 - 第9回 バドミントン（1）：楽しさに触れる
 - 第10回 バドミントン（2）：楽しさの構造を検討する
 - 第11回 バドミントン（3）：楽しさの表現方法を検討する
 - 第12回 バドミントン（4）：楽しさを表現する [グループA]
 - 第13回 バドミントン（5）：楽しさを表現する [グループB]
 - 第14回 バドミントン（6）：大人数で楽しむ方法を検討する
 - 第15回 バドミントン（7）：大人数で楽しむ
- 定期試験は実施しない

天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

科目名： <UHH002> 健康とスポーツ実習【発B】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、「解釈」概念から文化を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技(アルティメット)ならびにバドミントンを題材として、スポーツの楽しさを理解したり、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 「解釈」概念からスポーツの文化性を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文化の概念およびその表現
 - 第3回 新スポーツの企画
 - 第4回 ルールの考案
 - 第5回 発表と実践(1)：グループA
 - 第6回 発表と実践(2)：グループB
 - 第7回 アルティメット(1)：楽しさに触れる
 - 第8回 アルティメット(2)：楽しさを表現する
 - 第9回 バドミントン(1)：楽しさに触れる
 - 第10回 バドミントン(2)：楽しさの構造を検討する
 - 第11回 バドミントン(3)：楽しさの表現方法を検討する
 - 第12回 バドミントン(4)：楽しさを表現する[グループA]
 - 第13回 バドミントン(5)：楽しさを表現する[グループB]
 - 第14回 バドミントン(6)：大人数で楽しむ方法を検討する
 - 第15回 バドミントン(7)：大人数で楽しむ
- 定期試験は実施しない

天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題(新スポーツの企画、表現課題の準備など)といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』(ポプラ・ブックス, 1982年) 図書館に配架

科目名： <UCE101> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

- 基礎的な文法を確実に理解し、使うことができるようになる。
- まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
- 実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語のbe動詞
 - 第2回 一般動詞（現在）
 - 第3回 一般動詞（過去）
 - 第4回 進行形
 - 第5回 未来形
 - 第6回 助動詞
 - 第7回 名詞・冠詞
 - 第8回 代名詞
 - 第9回 前置詞
 - 第10回 形容詞・副詞
 - 第11回 比較
 - 第12回 命令文・感嘆文
 - 第13回 接続詞()
 - 第14回 不定詞()・動名詞()
 - 第15回 受動態
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。
2. 宿題として課された提出物の準備をすること。
3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

佐藤哲三、他 「大学生の英語入門」(南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE101> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

本授業の目的は「全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むこと」に慣れることです。意見サポート型、パラグラフ並列型、直線型及び異質パラグラフ型の4つのパターンに分類される英文エッセイを、全体の構造を考えながら読んで内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。また、教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった英文を読んで内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 1 Conclusion / Reasons A. Right-hand traffic or left-hand traffic?
第3回 1 Conclusion / Reasons B. Should consumption tax be raised?
第4回 2 Social Trend A. The increase of depression
第5回 2 Social Trend B. US birth rate is declining.
第6回 3 Result / Cause A. Casino law was passed.
第7回 3 Result / Cause B. Why does Korea keep the draft system?
第8回 4 Several Explanations A. What was the cause of Napoleon's death?
第9回 4 Several Explanations B. Springtime depression peak
第10回 5 Comparison A. College and university
第11回 5 Comparison B. A combined junior and senior high school and ordinary high school
第12回 6 For and Against A. A married couple having different surnames
第13回 6 For and Against B. School uniforms
第14回 7 Classification A. Lies
第15回 7 Classification B. Manga
定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Skills for Better Reading <Basic>（石谷由美子著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE101> 英語 【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction。
 - 第2回 Unit 1 Introductions
 - 第3回 Unit 1 Talking about yourself
 - 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
 - 第5回 Unit 2 Work and school
 - 第6回 Unit 2 Asking information
 - 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
 - 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
 - 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
 - 第10回 Unit 3 Shopping English
 - 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
 - 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
 - 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
 - 第14回 Unit 4 Inviting people do things
 - 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE102> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級問題の8割は解くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
- 第2回 比較()
- 第3回 接続詞()
- 第4回 5文型
- 第5回 各種疑問文
- 第6回 不定詞()
- 第7回 Itの特別用法
- 第8回 時制
- 第9回 関係代名詞(基本)
- 第10回 関係代名詞(発展)
- 第11回 完了形(結果、継続)
- 第12回 完了形(経験)
- 第13回 仮定法(基本)
- 第14回 仮定法(過去完了)
- 第15回 英語の重要構文と熟語
定期試験

【授業時間外の学習】

- 授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。
1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。
 2. 提出物の準備をすること。
 3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE102> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

本授業の目的は「全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むこと」に慣れることです。英語に引き続き、意見サポート型、パラグラフ並列型、直線型及び異質パラグラフ型の4つのパターンに分類される英文エッセイを、全体の構造を考えながら読んで内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。また、教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 8 History A. Bill Gates |
| 第3回 | 8 History B. Steve Jobs |
| 第4回 | 9 Process A. How to make tempura |
| 第5回 | 9 Process B. How to make "niku-jaga (meat and potatoes)" |
| 第6回 | 10 Cause and Effect A. Work-style reforms |
| 第7回 | 10 Cause and Effect B. School meals |
| 第8回 | 11 Definition of a New Word A. Cool Japan |
| 第9回 | 11 Definition of a New Word B. Crowdfunding |
| 第10回 | 12 Research A. Self-esteem declines after retirement |
| 第11回 | 12 Research B. The more sleep, the happier |
| 第12回 | 13 New Products, New Service A. A nosy coin bank |
| 第13回 | 13 New Products, New Service B. Gerontaxi |
| 第14回 | 14 Reading Graphs A. Old people are irritated. |
| 第15回 | 14 Reading Graphs B. More middle-aged single people live with their parents. |

定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Skills for Better Reading <Basic>（（石谷由美子著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE102> 英語 【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will be given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
 - 第2回 Unit 5 Family
 - 第3回 Unit 5 Relationships
 - 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
 - 第5回 Unit 6 Exercising
 - 第6回 Unit 6 Doing things
 - 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
 - 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
 - 第9回 Unit 7 Free time
 - 第10回 Unit 7 At home
 - 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
 - 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
 - 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
 - 第14回 Unit 8 Describing an locale; conversation quiz
 - 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCP101> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a basic introduction to conversational and travel English. The aim of the course is to build confidence in the students to use English. The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

【到達目標】

Students will have a much stronger understanding of grammar and a larger English vocabulary. They will feel confident when doing a number of things abroad, such as checking into hotels, eating at restaurants and communicating with English speakers in general.

【授業計画】

15 x 90 min classes.

Week 1: introduction to course and textbook. Home study

>>> Because of corona virus, classes will be held on google classroom (online) for week 1 and 2. you need a google account. Your access code is 2mpfvz

Week 2: introducing yourself and another person

week 3: hobbies and interests

Week 4: simple comparatives

Week 5: starting and ending conversations.

week 6: checking meaning and confirming plans

week 7: midterm exam

week 8: instructing someone one how to complete a simple task

week 9: giving directions

week 10: visiting a doctor and describing symptoms

week 11: adjectives for taste, smell and texture

week 12: basic conjunction practice (and, so, but -etc)

week 13: invitations

week 14: excuses and apologies

week 15: semester review

week 16: final exam

【授業時間外の学習】

students will do weekly homework between 30 mins - 60 mins. Sometimes students will have to complete reports.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

English Firsthand: Access
publisher: Pearson

ISBN: 978-9813130203

(Price: 2926 Yen)

【参考文献】

News articles at different levels, in English for self study. <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP102> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

Continuing from Practical English 1, students will develop their speaking and writing skills. We will begin using more complex grammar and introducing a lot more vocabulary. Students will practice in a variety of situations, such as group work, presentations, and report writing. After completing this course, students should feel confident communicating with English-speaking businesses through email, over the phone or in person. Students will also have a good base of business language if they are interested in working for an English-speaking company in the future.

【到達目標】

The goal of this course is to make the students confident English speakers. They should feel comfortable traveling, giving short speeches, and having simple conversations in English.

【授業計画】

15 x 90 minutes classes.

Week 1: past simple tense to describe recent activities
week 2: introduction to present continuous tense
week 4: introduction to present perfect continuous tense
week 5: Using continuous tense to describe recent national/global events
Week 6: review of recent grammar and exam preparation
week 7: midterm test
week 9: clothes shopping, sizes and styles
week 10: ordering from a menu for yourself and another person; asking about food
week 11: giving directions to a place
week 12: writing a complaint about poor service or a broken item
week 13: giving suggestions and discussing strategies
week 14: discussing and comparing the cultures of other countries
week 15: semester review
week 16 final test

【授業時間外の学習】

Weekly homework and reports. between 30 - 60 minutes of homework per week.

【成績の評価】

Homework, midterm tests and notes will be discussed during class hours with individual students.

in class effort (taking notes in class, participating in lessons and displaying a positive attitude towards study): 30%
midterm test: 20%
Homework: 20%
Final test: 30%

Feedback will be given during lesson-time, with help and advice given as needed.

【使用テキスト】

English Firsthand: access
Publisher: Pearson
Price: 2,926 Yen

ISBN: 978-9813130203

【参考文献】

a good self study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCF101> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません！」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語に参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

15回の授業を2つのプロジェクトに分けます。それをさらに3つのテーマに分けて、各テーマに対して2つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話を中心になり（話す力）、そして、その会話について簡単な文書を読みます（読む力）。2つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし（書く力）、それを発表して、会話に戻します（一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました）。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。プロジェクトごとにまとめ（復習）の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との的確なコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

Google Classroom コード : suk5ho7 をお願いします！

- 第1回 (初級) 自分について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 自分について、書く(発表)
 - 第3回 (初級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第4回 (初級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第5回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第6回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第7回 (初級) テーマの復習
 - 第8回 (中級) 自分について、話す(読む)
 - 第9回 (中級) 自分について、書く(発表)
 - 第10回 (中級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第11回 (中級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第14回 (中級) テーマの復習
 - 第15回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF102> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定5級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。独学でフランス語検定5級を受けられる力を身につける。

【授業計画】

Google Classroom コード : suk5ho7 をお願いします！

- 第1回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 日常生活について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 日常生活について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 日常生活について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 日常生活について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 日常生活について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 最近あったことについて、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 最近あったことについて、書く(発表)
 - 第10回 (初級) これからあることについて、話す(読む)
 - 第11回 (初級) これからあることについて、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価	80%	総合合格点は60点以上です。
テーマの復習	20%	

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCC101> 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
2. 中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
3. 中国語基本文型の構造が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
 - 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
 - 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
 - 第4回 子音、鼻音
 - 第5回 ピンインの小テスト
 - 第6回 名前の言い方
 - 第7回 簡単な挨拶
 - 第8回 「是」の使い方
 - 第9回 形容詞述語文
 - 第10回 中間テスト（ピンイン・自己紹介・形容詞述語の習得程度を考査する）
 - 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
 - 第12回 動詞述語
 - 第13回 疑問文のタイプ
 - 第14回 数字の言い方
 - 第15回 お金の言い方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『ピンイン書き込み練習帳』

科目名： <UCC102> 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。
また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 簡単な会話ができる。
2. 簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」
 - 第2回 存在する動詞「有」
 - 第3回 時間の学習
 - 第4回 時間量を表す語
 - 第5回 過去形表現
 - 第6回 選択疑問文
 - 第7回 現在進行形
 - 第8回 中間テスト（第1回から第7回までの内容）
 - 第9回 「会」、「能」の使い方
 - 第10回 助動詞「可以」
 - 第11回 動詞の重ね型
 - 第12回 「是...的」の使い方
 - 第13回 過去の経験を表す表現
 - 第14回 連動型
 - 第15回 復習（単語と文型を応用して作文する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

作文（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
李佳坤自作初級練習教材

科目名： <KARA6>子どもと健康【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

子どもと健康では、本学の卒業認定・学位授与の方針をふまえ、子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を身につけ、自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を養うための科目として位置づけられています。

乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探求することを何よりも大切にしたいと思います。

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達の特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：保育の基本理念と領域「健康」
- 第2回：領域「健康」の特徴
- 第3回：子どもの健康（1） <乳幼児期の健康とは>
- 第4回：子どもの健康（2） <乳幼児期の心の健康と体の健康について>
- 第5回：子どもの発達と健康（1） <乳幼児の発達の考え方について>
- 第6回：子どもの発達と健康（2） <乳幼児の身体の発達について>
- 第7回：子どもの発達と健康（3） <乳幼児の運動の発達について>
- 第8回：子どもの発達と健康（4） <乳幼児の精神機能の発達について>
- 第9回：子どもの基本的生活習慣の発達（1） <乳幼児における基本的生活習慣とは>
- 第10回：子どもの基本的生活習慣の発達（2） <乳幼児における基本的生活習慣の各論>
- 第11回：子どもの基本的生活習慣の発達（3） <乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について>
- 第12回：子どもの安全教育と健康教育（1） <乳幼児の安全能力と事故防止について>
- 第13回：子どもの安全教育と健康教育（2） <園における安全管理の実際について>
- 第14回：子どもの安全教育と健康教育（3） <幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み>
- 第15回：総括
定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業内に作成する小レポート：50%

期末試験：30%

授業態度：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子 『演習 保育内容 健康 - 大人から子どもへつなぐ健康の視点 -』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省 『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

科目名： <KARA6>子どもと健康【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

子どもと健康では、本学の卒業認定・学位授与の方針をふまえ、子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を身につけ、自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を養うための科目として位置づけられています。

乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探求することを何よりも大切にしたいと思えます。

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達の特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：保育の基本理念と領域「健康」
- 第2回：領域「健康」の特徴
- 第3回：子どもの健康（1） <乳幼児期の健康とは>
- 第4回：子どもの健康（2） <乳幼児期の心の健康と体の健康について>
- 第5回：子どもの発達と健康（1） <乳幼児の発達の考え方について>
- 第6回：子どもの発達と健康（2） <乳幼児の身体の発達について>
- 第7回：子どもの発達と健康（3） <乳幼児の運動の発達について>
- 第8回：子どもの発達と健康（4） <乳幼児の精神機能の発達について>
- 第9回：子どもの基本的生活習慣の発達（1） <乳幼児における基本的生活習慣とは>
- 第10回：子どもの基本的生活習慣の発達（2） <乳幼児における基本的生活習慣の各論>
- 第11回：子どもの基本的生活習慣の発達（3） <乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について>
- 第12回：子どもの安全教育と健康教育（1） <乳幼児の安全能力と事故防止について>
- 第13回：子どもの安全教育と健康教育（2） <園における安全管理の実際について>
- 第14回：子どもの安全教育と健康教育（3） <幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み>
- 第15回：総括
定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業内に作成する小レポート：50%

期末試験：30%

授業態度：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子 『演習 保育内容 健康 - 大人から子どもへつなぐ健康の視点 -』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省 『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

科目名： <KOK011> 子どもと人間関係【発A】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本講義では、卒業認定・学位授与の方針の子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身に付けることの育成に関わる。また、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要な子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのか検討する。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学ぶ。

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、学生が理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：幼稚園・保育所での人間関係
 - 第3回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題
 - 第4回：愛着と信頼関係
 - 第5回：自己主張と自己抑制
 - 第6回：他者の心の理解
 - 第7回：他者の心の理解のめばえと深まり
 - 第8回：うそと欺きの発達からみる子どもの社会性
 - 第9回：道徳性の発達
 - 第10回：コミュニケーションの発達
 - 第11回：メタ認知と社会性
 - 第12回：あそびの中にみる人間関係の発達(1) Parten理論、形態論と目標水準仮説
 - 第13回：あそびの中にみる人間関係の発達(2) Brunerの足場づくり理論
 - 第14回：実践の理論化
 - 第15回：教育要領や保育指針からみる人間関係
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各回で学習内容した内容をまとめる課題を課す(30分)。また、各回の概要について配布した資料などを用いて予習する範囲を指示する(30分)。

【成績の評価】

定期試験(60%)、授業課題(40%)の割合で総合評価する。授業課題については、課題を実施した次の授業にて全体に対してフィードバックを行う。試験について、全体の傾向について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

- 集団遊びの発達心理学(平成26年、田中浩司著、北大路書房)
- 新時代の保育双書 保育内容人間関係(平成21年、濱名浩編著、みらい)
- 子どもの社会的な心の発達(平成28年、林創著、金子書房)

科目名： <KOK011> 子どもと人間関係【発B】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本講義では、卒業認定・学位授与の方針の子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身に付けることをめざす。また、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要な子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのかを検討する。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学ぶ。

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、学生が理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：幼稚園・保育所での人間関係
 - 第3回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題
 - 第4回：愛着と信頼関係
 - 第5回：自己主張と自己抑制<<在宅学習>>
 - 第6回：他者の心の理解<<在宅学習>>
 - 第7回：他者の心の理解のめばえと深まり
 - 第8回：うそと欺きの発達からみる子どもの社会性
 - 第9回：道徳性の発達
 - 第10回：コミュニケーションの発達
 - 第11回：メタ認知と社会性
 - 第12回：あそびの中にみる人間関係の発達(1) Parten理論、形態論と目標水準仮説
 - 第13回：あそびの中にみる人間関係の発達(2) Brunerの足場づくり理論
 - 第14回：実践の理論化
 - 第15回：教育要領や保育指針からみる人間関係
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各回で学習内容した内容をまとめる課題を課す(30分)。また、各回の概要について配布した資料などを用いて予習する範囲を指示する(30分)。

【成績の評価】

定期試験(60%)、授業課題(40%)の割合で総合評価する。授業課題については、課題を実施した次の授業にて全体に対してフィードバックを行う。試験について、全体の傾向について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

- 集団遊びの発達心理学(平成26年、田中浩司著、北大路書房)
新時代の保育双書 保育内容人間関係(平成21年、濱名浩編著、みらい)
子どもの社会的な心の発達(平成28年、林創著、金子書房)

科目名： <KOK012>子どもと環境【発A】
担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。この授業では、領域「環境」の側面から、幼児の発達とその指導について学習する。教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するために、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を基本とし、幼児が経験し身に付けていく心情・意欲・態度について具体的に学ぶ。教育・保育に携わる者に求められる豊かな心や様々なものへの興味・関心を持ち続けるために、実践的な活動と結びつけて理解することをめざす。子どもたちの生活や遊び、そして5領域と関連させながら、就学前教育における領域「環境」について学習し、教育・保育の実践力を身につける。この授業を通して、日常の生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざす。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容を理解し、記述できる。
2. 領域「環境」において幼児が経験し身に付けていく内容について知り、子どもの育ちと活動を関連づけて、考えることができる。
3. 領域「環境」に関連する基本的な知識を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分で考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（領域「環境」とは）
- 第2回：身近な環境と子どもの育ち
- 第3回：身近な自然との関わり
- 第4回：生き物との関わり
- 第5回：ものの性質・仕組みへの関心
- 第6回：季節・生活の変化への関心
- 第7回：数量・図形などへの関心
- 第8回：標識・文字などへの関心
- 第9回：生活のなかの情報と地域施設への関心
- 第10回：子どもの遊びと領域「環境」
- 第11回：領域「環境」と指導計画
- 第12回：領域「環境」と観察・記録
- 第13回：領域「環境」の実践事例から学ぶ
- 第14回：5領域と領域「環境」について
- 第15回：現代社会における子どもと「環境」

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、次回の授業内容に関連する情報を収集したり、身近な環境を調べたりする。（1時間）復習として、授業シート・配布資料等を読み返し、学習内容・疑問点等をノートにまとめる。（1時間）

【成績の評価】

レポート（40%）、毎回の授業シート（30%）、小テスト（30%）により、評価する。
レポート・授業シート・小テストは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（2018）
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018）
- ・神長美津子他編著『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 環境』（2018年,光生館）

【参考文献】

- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）

科目名： <KOK012>子どもと環境【発B】
担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。この授業では、領域「環境」の側面から、幼児の発達とその指導について学習する。教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するために、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を基本とし、幼児が経験し身に付けていく心情・意欲・態度について具体的に学ぶ。教育・保育に携わる者に求められる豊かな心や様々なものへの興味・関心を持ち続けるために、実践的な活動と結びつけて理解することをめざす。子どもたちの生活や遊び、そして5領域と関連させながら、就学前教育における領域「環境」について学習し、教育・保育の実践力を身につける。この授業を通して、日常の生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざす。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容を理解し、記述できる。
2. 領域「環境」において幼児が経験し身に付けていく内容について知り、子どもの育ちと活動を関連づけて、考えることができる。
3. 領域「環境」に関連する基本的な知識を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分で考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（領域「環境」とは）
- 第2回：身近な環境と子どもの育ち
- 第3回：身近な自然との関わり
- 第4回：生き物との関わり
- 第5回：ものの性質・仕組みへの関心
- 第6回：季節・生活の変化への関心
- 第7回：数量・図形などへの関心
- 第8回：標識・文字などへの関心
- 第9回：生活のなかの情報と地域施設への関心
- 第10回：子どもの遊びと領域「環境」
- 第11回：領域「環境」と指導計画
- 第12回：領域「環境」と観察・記録
- 第13回：領域「環境」の実践事例から学ぶ
- 第14回：5領域と領域「環境」について
- 第15回：現代社会における子どもと「環境」

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、次回の授業内容に関連する情報を収集したり、身近な環境を調べたりする。（1時間）復習として、授業シート・配布資料等を読み返し、学習内容・疑問点等をノートにまとめる。（1時間）

【成績の評価】

レポート（40%）、毎回の授業シート（30%）、小テスト（30%）により、評価する。
レポート・授業シート・小テストは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（2018）
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018）
- ・神長美津子他編著『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 環境』（2018年,光生館）

【参考文献】

- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）

科目名： <TISE2>子どもと言葉【発A】

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連づけて理解できる。

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性と5領域
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらい(保育指針に照らして)
 - 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(1) エントレインメント
 - 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(2) マザリース
 - 第5回 言葉の先駆的行動(共同注意、ポインティング、三項関係)
 - 第6回 言葉環境(1) 人的環境 第7回 言葉環境(2) 子どもの生活と言葉
 - 第8回 言葉環境(3) 言葉と発達の連関
 - 第9回 言葉と幼児理解
 - 第10回 言葉と思考(1) ルリアの理論
 - 第11回 言葉と思考(2) 言語調整機能
 - 第12回 保育者の役割と援助
 - 第13回 障がい児とのかかわり(1) 学習困難
 - 第14回 障がい児とのかかわり(2) 自閉症
 - 第15回 障がい児とのかかわり(3) 注意欠陥多動性障害
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業とは別に開講されている「観察参加」で記録した直近の言語的エピソードを毎回整理しておくこと。(1時間)

【成績の評価】

レポート(10%)、定期試験(80%)、授業への参加度(10%)
課題(試験やレポートなど)に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

「保育内容 言葉」(平成30年 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編、ミネルヴァ書房)

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： <TISE2>子どもと言葉【発B】

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連付けて理解できる。

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらい
 - 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(1) エントレインメント
 - 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(2) マザリース
 - 第5回 言葉の先駆的行動(共同注意、ポインティング、三項関係)
 - 第6回 言葉環境(1) 人的環境
 - 第7回 言葉環境(2) 子どもの生活と言葉
 - 第8回 言葉環境(3) 言葉と発達の連関
 - 第9回 言葉と幼児理解
 - 第10回 言葉と思考(1) ルリアの理論
 - 第11回 言葉と思考(2) 言語調整機能
 - 第12回 保育者の役割と援助
 - 第13回 障がい児とのかかわり(1) 学習困難
 - 第14回 障がい児とのかかわり(2) 自閉症
 - 第15回 障がい児とのかかわり(3) 注意欠陥多動性障害
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業とは別に開講されている「観察参加」で記録した直近の言語的エピソードを毎回整理しておくこと。(1時間)

【成績の評価】

レポート(10%)、定期試験(80%)、授業への参加度(10%)
課題(試験やレポートなど)に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

「保育内容 言葉」(平成30年 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編、ミネルヴァ書房)

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】

担当教員： 水嶋 育 (MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしいさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしいさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 出木浦 さゆり (DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)

試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、
ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【発A】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、
ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
- 第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、
ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。

保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。

まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。

・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習

第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い

第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い

第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い

第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い

第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い

第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い

第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い

第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、

ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い

第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い

第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中の子どもたちが）弾き歌い

第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い

第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い

第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い

第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い

定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点

・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）

試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
- 第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、
ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
- 第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【発B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
- 第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【発B】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。
保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。
まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い
- 第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】

担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。

保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技術を磨き、実践能力をさらに高めていく。

まず授業開始の30分で音楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。

・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習

第2回：呼吸法・発声練習 母音の歌い出し（あめふりくまのこ、おつかいありさん）弾き歌い

第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱（とんぼのめがめ、夕焼け小焼け）弾き歌い

第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱（虫のこえ、大きな古時計）弾き歌い

第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習（たきび、やまのおんがくか）弾き歌い

第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱（まっかな秋、となりのトトロ）弾き歌い

第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1（やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも）弾き歌い

第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2（ゆき、うちゅうせんのうた）弾き歌い

第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1（あわてんぼうのサンタクロース、

ハッピー・バースデー・トゥ・ユー）弾き歌い

第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い

第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習（ジングル・ベル、世界中のこどもたちが）弾き歌い

第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1（おばけなんてないさ、ふしぎなポケット）弾き歌い

第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2（うれしいひなまつり、さんぽ）弾き歌い

第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3（思い出のアルバム、メダカの学校）弾き歌い

第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4（1年生になったら、ドレミの歌）弾き歌い

定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点

・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価（80%）

試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

教科の目標についてのレポート提出（20%）

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（本廣明美・加藤昭恵共著）ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < TISE23 > 造形表現 【 発 A 】

担当教員： 津田 浩二, 辻野 栄一

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造力を豊かにするものである。「技法のいろいろ」、「立体構成」、「ワークショップ」、「紙粘土のオブジェ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 技法のいろいろ(1) 「ドリップング」「マーブリング」
- 第3回 技法のいろいろ(2) 「スパッタリング」「ぼかし」「ウォッシング」
- 第4回 技法のいろいろ(3) 「フロッタージュ」「スクラッチボード」「デカルコマニー」
- 第5回 技法による作品制作
- 第6回 立体構成(1) (試作)
- 第7回 立体構成(2) (色彩表現)
- 第8回 立体構成(3) (色彩表現、立体制作)
- 第9回 ワークショップ(1) (アイデアスケッチ)
- 第10回 ワークショップ(2) (下絵、彩色)
- 第11回 ワークショップ(3) (彩色、)
- 第12回 ワークショップ(4) (彩色、仕上げ)
- 第13回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第14回 紙粘土のオブジェ(2) (彩色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「技法のいろいろ」、「立体構成」、「ワークショップ」、「紙粘土のオブジェ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE23 > 造形表現 【 発 B 】

担当教員： 津田 浩二, 辻野 栄一

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造性を豊かにするものである。「技法のいろいろ」、「立体構成」、「ワークショップ」、「紙粘土のオブジェ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 技法のいろいろ(1) 「ドリップング」「マーブリング」
- 第3回 技法のいろいろ(2) 「スパッタリング」「ぼかし」「ウォッシング」
- 第4回 技法のいろいろ(3) 「フロッタージュ」「スクラッチボード」「デカルコマニー」
- 第5回 技法による作品制作
- 第6回 立体構成(1) (試作)
- 第7回 立体構成(2) (色彩表現)
- 第8回 立体構成(3) (色彩表現、立体制作)
- 第9回 ワークショップ(1) (アイデアスケッチ)
- 第10回 ワークショップ(2) (下絵、彩色)
- 第11回 ワークショップ(3) (彩色)
- 第12回 ワークショップ(4) (彩色、仕上げ)
- 第13回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第14回 紙粘土のオブジェ(2) (彩色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「技法のいろいろ」、「立体構成」、「ワークショップ」、「紙粘土のオブジェ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(榎英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE24> 造形表現 【発A】

担当教員： 津田 浩二, 辻野 栄一

【授業の紹介】

本授業では、「手作り絵本」、「ポップアップカード」、「壁面のデザイン」、「コラージュ」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 手作り絵本(1) (あら筋、アイディアスケッチ)
- 第3回 手作り絵本(2) (下絵、彩色)
- 第4回 手作り絵本(3) (彩色)
- 第5回 手作り絵本(4) (彩色、仕上げ)
- 第6回 ポップアップカード(1) (アイディアスケッチ、下絵)
- 第7回 ポップアップカード(2) (彩色)
- 第8回 ポップアップカード(3) (組立て、仕上げ)
- 第9回 壁画のデザイン(1) (アイディアスケッチ)
- 第10回 壁画のデザイン(2) (下絵、彩色)
- 第11回 壁画のデザイン(3) (彩色)
- 第12回 壁画のデザイン(4) (彩色、仕上げ)
- 第13回 コラージュ(1) (切り抜き、構成)
- 第14回 コラージュ(2) (構成、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についての総評
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「手作り絵本」、「ポップアップカード」、「壁画のデザイン」、「コラージュ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE24 > 造形表現 【 発 B 】

担当教員： 津田 浩二, 辻野 栄一

【授業の紹介】

本授業では、「手作り絵本」、「ポップアップカード」、「壁画のデザイン」、「コラージュ」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 手作り絵本(1)(あら筋、アイディアスケッチ)
- 第3回 手作り絵本(2)(下絵、彩色)
- 第4回 手作り絵本(3)(彩色)
- 第5回 手作り絵本(4)(彩色、仕上げ)
- 第6回 ポップアップカード(1)(アイディアスケッチ、下絵)
- 第7回 ポップアップカード(2)(彩色)
- 第8回 ポップアップカード(3)(組立て、仕上げ)
- 第9回 壁画のデザイン(1)(アイディアスケッチ)
- 第10回 壁画のデザイン(2)(下絵、彩色)
- 第11回 壁画のデザイン(3)(彩色)
- 第12回 壁画のデザイン(4)(彩色、仕上げ)
- 第13回 コラージュ(1)(切り抜き、構成)
- 第14回 コラージュ(2)(構成、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についての総評
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「手作り絵本」、「ポップアップカード」、「壁画のデザイン」、「コラージュ」の制作において、資料を収集しておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE13> 保育内容 - 表現 【発A】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。
また、本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から県教育委員会より造形活動の指導員として委嘱され、幼稚園や保育所で造形活動の指導を行っています。
そのため、この授業では、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法も学びながら、基本的な造形活動（造形遊び）を自ら体験することで、保育者としての資質能力を身に付けることができると考えています。
なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関わっています。

【到達目標】

- ・ 保育の現場で実践されている様々な技法遊びを習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・ 自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【授業計画】

- 第1回 保育園・幼稚園等での造形活動や造形作品を鑑賞し、幼児の造形表現の意義や目的について考える。
- 第2回 技法遊び 「スタンピング」身の回りにある様々な素材を使ってスタンプを自由に楽しみ、素材の工夫やスタンプして生まれる形の面白さや美しさに気付く。
- 第3回 技法遊び 「ドリッピング」絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。
- 第4回 技法遊び 「バチック」クレヨンなど油分を含んだ画材で絵を描き、その上から水彩絵の具を塗ることによって浮かび上がる絵の効果を楽しむ。
- 第5回 技法遊び 「デカルコマニー」吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。
- 第6回 技法遊び 「糸引き絵」絵の具で色を付けた紐を二つ折りにした紙に挟み、それを引き抜くことで、不思議な形や模様が現れることを楽しむことができる。
- 第7回 技法遊び 「スパッタリング」画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。
- 第8回 技法遊び 「ステンシル」形や模様などを切り抜いた型枠を用いて、絵の具やパステルなどで色をつけることを楽しむ。
- 第9回 技法遊び 「フロッタージュ」凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。
- 第10回 技法遊び 「スクラッチ」ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。
- 第11回 技法遊び 「にじみ絵」湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。
- 第12回 技法遊び 「マーブリング」水面にマーブリング液をたらし、静かにかき回し、そこにできた模様を写し取ることを楽しむ。
- 第13回 技法遊び 「紙版画」台紙に厚紙などを貼り付けて凹凸をつくり、その上にインクをのせて刷ると、紙の段差（厚み）が白く線となって形が現れることを理解する。
- 第14回 技法遊び 「コラージュ」身の回りにある印刷物や布、紐などを自由に貼り合わせて図柄をつくることを楽しみます。これまでの技法遊びでの作品を利用する。
- 第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

次回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いたりすることが必要である。（1時間以上）
また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げ提出すること。（相当する時間）

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「保育者をめざす 楽しい造形表現」(齋藤正人監修・編著、圭文社、2018年)
- 「保育所保育指針 解説」(厚生労働省 平成30年2月)
- 「幼稚園教育要領 解説」(文部科学省 平成30年2月)

科目名： <TISE13> 保育内容 - 表現 【発B】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。また、本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、2年前から県教育委員会より造形活動の指導員として委嘱され、幼稚園や保育所で造形活動の指導を行っています。

そのため、この授業では、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法も学びながら、基本的な造形活動（造形遊び）を自ら体験することで、保育者としての資質能力を身に付けることができると考えています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関わっています。

【到達目標】

- ・ 保育の現場で実践されている様々な技法遊びを習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・ 自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【授業計画】

- 第1回 保育園・幼稚園等での造形活動や造形作品を鑑賞し、幼児の造形表現の意義や目的について考える。
- 第2回 技法遊び 「スタンピング」身の回りにある様々な素材を使ってスタンプを自由に楽しみ、素材の工夫やスタンプして生まれる形の面白さや美しさに気付く。
- 第3回 技法遊び 「ドリッピング」絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。
- 第4回 技法遊び 「バチック」クレヨンなど油分を含んだ画材で絵を描き、その上から水彩絵の具を塗ることによって浮かび上がる絵の効果を楽しむ。
- 第5回 技法遊び 「デカルコマニー」吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。
- 第6回 技法遊び 「糸引き絵」絵の具で色を付けた紐を二つ折りにした紙に挟み、それを引き抜くことで、不思議な形や模様が現れることを楽しむことができる。
- 第7回 技法遊び 「スパッタリング」画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。
- 第8回 技法遊び 「ステンシル」形や模様などを切り抜いた型枠を用いて、絵の具やパステルなどで色をつけることを楽しむ。
- 第9回 技法遊び 「フロッタージュ」凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。
- 第10回 技法遊び 「スクラッチ」ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。
- 第11回 技法遊び 「にじみ絵」湿らせた紙に色を置いていったり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。
- 第12回 技法遊び 「マーブリング」水面にマーブリング液をたらし、静かにかき回し、そこにできた模様を写し取ることを楽しむ。
- 第13回 技法遊び 「紙版画」台紙に厚紙などを貼り付けて凹凸をつくり、その上にインクをのせて刷ると、紙の段差（厚み）が白く線となって形が現れることを理解する。
- 第14回 技法遊び 「コラージュ」身の回りにある印刷物や布、紐などを自由に貼り合わせて図柄をつくることを楽しみます。これまでの技法遊びでの作品を利用する。
- 第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

次回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いたりすることが必要である。（1時間以上）
また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げ提出すること。（相当する時間）

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「保育者をめざす 楽しい造形表現」(齋藤正人監修・編著、圭文社、2018年)
- 「保育所保育指針 解説」(厚生労働省 平成30年2月)
- 「幼稚園教育要領 解説」(文部科学省 平成30年2月)

科目名： <ONGA12> 保育内容 - 表現 【発A】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連
- 第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」
- 第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」
- 第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」
- 第5回：わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
- 第6回：リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」
- 第7回：リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用
- 第8回：音楽表現における教材選び、指導案の作成
- 第9回：トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動
- 第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
- 第11回：指導案に沿った模擬保育とその振り返り
- 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用
- 第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
- 第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
- 第15回：音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を週に最低1時間以上行う。課題曲は必ず歌詞を覚える。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時またはオフィスアワーに指導を受けること。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）
定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 厚生労働省）

科目名： <ONGA12> 保育内容 - 表現 【発B】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レポートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連
- 第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」
- 第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」
- 第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」
- 第5回：わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
- 第6回：リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」
- 第7回：リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用
- 第8回：音楽表現における教材選び、指導案の作成
- 第9回：トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動
- 第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
- 第11回：指導案に沿った模擬保育とその振り返り
- 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用
- 第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
- 第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
- 第15回：音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を週に最低1時間以上行う。課題曲は必ず歌詞を覚える。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時またはオフィスアワーに指導を受けること。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）
定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 厚生労働省）

科目名： <KARA8> 保育内容 - 健康 【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
 - 第2回 子どもの健康の考え方
 - 第3回 領域「健康」において育むもの
 - 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
 - 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
 - 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)
 - 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)
 - 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)
 - 第9回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)
 - 第10回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)
 - 第11回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について)
 - 第12回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)
 - 第13回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)
 - 第14回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと生活について>
 - 第15回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと運動について>
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。
また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)
- 菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林、1990年)
- 森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)
- 生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)
- 原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房、1997年)
- 無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)
- 河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)

科目名： <KARA8> 保育内容 - 健康 【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
 - 第2回 子どもの健康の考え方
 - 第3回 領域「健康」において育むもの
 - 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
 - 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
 - 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)
 - 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)
 - 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)
 - 第9回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)
 - 第10回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)
 - 第11回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について)
 - 第12回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)
 - 第13回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)
 - 第14回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと生活について>
 - 第15回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと運動について>
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。
また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)
- 菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林、1990年)
- 森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)
- 生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)
- 原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房、1997年)
- 無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)
- 河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)

科目名： <KARA9> 保育内容 - 健康 【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|------------------|-------------------------------|
| 第1回 | 子どもの身体の発達の原則 | (身長と体重について) |
| 第2回 | 子どもの身体の発達の原則 | (骨の形成について) |
| 第3回 | 子どもの身体の発達の原則 | (脊柱の湾曲について) |
| 第4回 | 子どもの身体の発達の原則 | (生理的機能の発達について) |
| 第5回 | 子どもの身体と発達の原則 | (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ) |
| 第6回 | 子どもの身体と運動の発達のまとめ | |
| 第7回 | 基本的生活習慣の形成 | (食事について) |
| 第8回 | 基本的生活習慣の形成 | (睡眠について) |
| 第9回 | 基本的生活習慣の形成 | (衣服の着脱, 排泄について) |
| 第10回 | 基本的生活習慣の形成 | (生活リズムについて) |
| 第11回 | 安全の指導 | (けが・事故の実態について) |
| 第12回 | 安全の指導 | (事故のメカニズムについて) |
| 第13回 | 安全の指導 | (子どもの安全の指導) |
| 第14回 | 安全の指導 | (子どものルール・きまりの理解) |
| 第15回 | 総括 | (子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について) |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』(平成30年3月)

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林 1990年)

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版 1992年)

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房 1993年)

原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房 1997年)

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林 2007年)

科目名： <KARA9> 保育内容 - 健康 【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------|-------------------------------|
| 第1回 | 子どもの身体の発達の原則 | (身長と体重について) |
| 第2回 | 子どもの身体の発達の原則 | (骨の形成について) |
| 第3回 | 子どもの身体の発達の原則 | (脊柱の湾曲について) |
| 第4回 | 子どもの身体の発達の原則 | (生理的機能の発達について) |
| 第5回 | 子どもの身体と発達の原則 | (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ) |
| 第6回 | 子どもの身体と運動の発達 | のまとめ |
| 第7回 | 基本的生活習慣の形成 | (食事について) |
| 第8回 | 基本的生活習慣の形成 | (睡眠について) |
| 第9回 | 基本的生活習慣の形成 | (衣服の着脱, 排泄について) |
| 第10回 | 基本的生活習慣の形成 | (生活リズムについて) |
| 第11回 | 安全の指導 | (けが・事故の実態について) |
| 第12回 | 安全の指導 | (事故のメカニズムについて) |
| 第13回 | 安全の指導 | (子どもの安全の指導) |
| 第14回 | 安全の指導 | (子どものルール・きまりの理解) |
| 第15回 | 総括 | (子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について) |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』(平成30年3月)

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林 1990年)

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版 1992年)

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房 1993年)

原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房 1997年)

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林 2007年)

科目名： <KOK04> 保育内容 - 人間関係 【発A】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有することに関わっています。子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。幼稚園教育要領、および、保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人とのかかわり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした、保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すことができるものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：現代社会と子どもの「人間関係」（教材研究に係る内容）
 - 第3回：外国の保育（教材研究に係る内容）
 - 第4回：道徳性の芽生えとルール（1）（道徳性の芽生えを培う、教材研究に係る内容）
 - 第5回：道徳性の芽生えとルール（2）（集団のルールやきまりに気づき守る、教材研究に係る内容）
 - 第6回：道徳性と向社会的行動の発達（1）（道徳性の発達理論、ねらいと内容を考える）
 - 第7回：道徳性と向社会的行動の発達（2）（向社会的行動と社会化への支援、ねらいと内容を考える）
 - 第8回：ジェンダーと保育（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容）
 - 第9回：ジェンダーフリーの教育から学ぶ（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容、ICT機器、教材の活用を含む）
 - 第10回：多様な文化的背景をもつ幼児の保育（教材研究に係る内容）
 - 第11回：乳児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第12回：幼児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第13回：乳児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第14回：幼児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第15回：まとめ（保育における人間関係の大切さを考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

予習としてテキスト該当範囲の読み、内容について理解しておくことを求める（20分）。復習として、授業内で行ったディスカッションの内容をまとめ（20分）、事例についての対応や考えをまとめることを求める（20分）。

【成績の評価】

授業の授業課題（30%）、心理学関連調査への参加状況（10%）、グループ発表（30%）、期末レポート（30%）の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係（小田豊・奥野正義 編著，北大路書房，2009年）

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（汐見稔幸・武藤 隆監修，ミネルヴァ書房，2018年）

保育所保育指針平成29年告示（フレーベル館，2017年）

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法，学校教育法（抄），学校教育法施行規則（抄）（フレーベル館，2017年）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示（フレーベル館，2017年）

科目名： <K0K04> 保育内容 - 人間関係 【発B】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業では、卒業認定・学位授与の方針の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていること、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有することに関わっています。子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいののだろうか。幼稚園教育要領、および、保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人とのかかわり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした、保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すことができるものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：現代社会と子どもの「人間関係」（教材研究に係る内容）
 - 第3回：外国の保育（教材研究に係る内容）
 - 第4回：道徳性の芽生えとルール（1）（道徳性の芽生えを培う、教材研究に係る内容）
 - 第5回：道徳性の芽生えとルール（2）（集団のルールやきまりに気づき守る、教材研究に係る内容）
 - 第6回：道徳性と向社会的行動の発達（1）（道徳性の発達理論、ねらいと内容を考える）
 - 第7回：道徳性と向社会的行動の発達（2）（向社会的行動と社会化への支援、ねらいと内容を考える）
 - 第8回：ジェンダーと保育（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容）
 - 第9回：ジェンダーフリーの教育から学ぶ（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容、ICT機器、教材の活用を含む）
 - 第10回：多様な文化的背景をもつ幼児の保育（教材研究に係る内容）
 - 第11回：乳児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第12回：幼児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第13回：乳児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第14回：幼児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第15回：まとめ（保育における人間関係の大切さを考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

予習としてテキスト該当範囲の読み、内容について理解しておくことを求める（20分）。復習として、授業内で行ったディスカッションの内容をまとめ（20分）、事例についての対応や考えをまとめることを求める（20分）。

【成績の評価】

授業の授業課題（30%）、心理学関連調査への参加状況（10%）、グループ発表（30%）、期末レポート（30%）の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係（小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年）

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年）

保育所保育指針平成29年告示（フレーベル館、2017年）

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法（抄）、学校教育法施行規則（抄）（フレーベル館、2017年）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示（フレーベル館、2017年）

科目名： <KOK05> 保育内容 - 人間関係 【発A】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本授業科目は、卒業認定・学位授与の方針のうち、教育・保育に必要な知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することに関わっている。本講義では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とのかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人とのかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回：あそびと人間関係
 - 第2回：あそびと保育者
 - 第3回：新しいあそび
 - 第4回：長時間の昼間保育の効果
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係(1)(6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育)
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係(2)(1歳3ヶ月～2歳児の保育)
 - 第7回：保育者と子どもの人間関係(3)(幼児の仲間づくりと保育者)
 - 第8回：人間関係でちょっと気になる子ども(1)(「気になる子ども」と自分の「見方」)
 - 第9回：人間関係でちょっと気になる子ども(2)(「気になる子ども」のチェックリスト)
 - 第10回：保育所・幼稚園における人間関係
 - 第11回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第12回：保育者同士の人間関係
 - 第13回：領域「人間関係」の考え方(1)(幼稚園教育要領を中心に)
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方(2)(保育所保育指針を中心に)
 - 第15回：まとめ(現代社会における保育者の役割を考える)
- 定期試験は実施しない(レポート)

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習を課す(各30分)。また各回の内容についてグループでの発表を課すため、資料作成等を課す(計8時間)。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題(30%)、心理学関連調査への参加状況(10%)、グループ発表(30%)、期末レポート(30%)の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係(小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年)

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント(汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年)

保育所保育指針平成29年告示(フレーベル館、2017年)

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)(フレーベル館、2017年)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示(フレーベル館、2017年)

科目名： <K0K05> 保育内容 - 人間関係 【発B】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本授業科目は、卒業認定・学位授与の方針のうち、教育・保育に必要な知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することに関わっている。本講義では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とのかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人とのかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回：あそびと人間関係
 - 第2回：あそびと保育者
 - 第3回：新しいあそび
 - 第4回：長時間の昼間保育の効果
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係(1)(6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育)
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係(2)(1歳3ヶ月～2歳児の保育)
 - 第7回：保育者と子どもの人間関係(3)(幼児の仲間づくりと保育者)
 - 第8回：人間関係でちょっと気になる子ども(1)(「気になる子ども」と自分の「見方」)
 - 第9回：人間関係でちょっと気になる子ども(2)(「気になる子ども」のチェックリスト)
 - 第10回：保育所・幼稚園における人間関係
 - 第11回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第12回：保育者同士の人間関係
 - 第13回：領域「人間関係」の考え方(1)(幼稚園教育要領を中心に)
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方(2)(保育所保育指針を中心に)
 - 第15回：まとめ(現代社会における保育者の役割を考える)
- 定期試験は実施しない(レポート)

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習を課す(各30分)。また各回の内容についてグループでの発表を課すため、資料作成等を課す(計8時間)。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題(30%)、心理学関連調査への参加状況(10%)、グループ発表(30%)、期末レポート(30%)の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係(小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年)

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント(汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年)

保育所保育指針平成29年告示(フレーベル館、2017年)

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)(フレーベル館、2017年)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示(フレーベル館、2017年)

科目名： <K0K06> 保育内容 - 環境 【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化など）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導上の留意点等について考えていきます。

また、小学校教育との連携や保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、教育・保育に必要な知識を実践と関連づけて理解するとともに、「実践力」を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------------------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、「環境」とは | |
| 第2回 | 5領域の中の「環境」について、領域「環境」のねらいと内容 | |
| 第3回 | 0, 1, 2歳児の育ちと環境とのかかわり | |
| 第4回 | 3, 4, 5歳児の育ちと環境とのかかわり | |
| 第5回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | (子どもの育ち・発達を捉える) |
| 第6回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | (保育者の援助や関わり) |
| 第7回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | グループワーク |
| 第8回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | グループワーク |
| 第9回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 発表・実践 |
| 第10回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 振り返り・評価 |
| 第11回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動 | (子どもの育ち・発達を捉える) |
| 第12回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動 | (保育者の援助や関わり) |
| 第13回 | 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり | |
| 第14回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会 |
| 第15回 | 保育の現代的課題(ESD)、まとめ(これまでの学びの振り返り) | |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。(30分)
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。(1時間)
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。(計15時間)
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。(30分)

【成績の評価】

関心・態度(10%)、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑(60%)、定期試験(30%)

ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、適宜授業で紹介します。

科目名： <K0K06> 保育内容 - 環境 【発B】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化など）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導上の留意点等について考えていきます。

また、小学校教育との連携や保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、教育・保育に必要な知識を実践と関連づけて理解するとともに、「実践力」を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------------------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、「環境」とは | |
| 第2回 | 5領域の中の「環境」について、領域「環境」のねらいと内容 | |
| 第3回 | 0, 1, 2歳児の育ちと環境とのかかわり | |
| 第4回 | 3, 4, 5歳児の育ちと環境とのかかわり | |
| 第5回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | (子どもの育ち・発達を捉える) |
| 第6回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | (保育者の援助や関わり) |
| 第7回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | グループワーク |
| 第8回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | グループワーク |
| 第9回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 発表・実践 |
| 第10回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 振り返り・評価 |
| 第11回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動 | (子どもの育ち・発達を捉える) |
| 第12回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動 | (保育者の援助や関わり) |
| 第13回 | 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり | |
| 第14回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 | 「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会 |
| 第15回 | 保育の現代的課題(ESD)、まとめ(これまでの学びの振り返り) | |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。(30分)
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。(1時間)
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。(計15時間)
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。(30分)

【成績の評価】

関心・態度(10%)、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑(60%)、定期試験(30%)

ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、適宜授業で紹介します。

科目名： <K0K07> 保育内容 - 環境 【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

環境では、環境の内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、教育・保育に必要な知識を実践と関連づけて理解するとともに、「実践力」を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション、領域『環境』の「ねらい」と「内容」の振り返り |
| 第2回 | 園の環境をデザインする（保育環境のデザインと物的環境） |
| 第3回 | 園の環境をデザインする（子どもの生活や遊びを豊かにする環境） |
| 第4回 | 園の環境をデザインする（室内環境を実際に作成する） |
| 第5回 | 社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際） |
| 第6回 | 指導形態とカリキュラム |
| 第7回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成） |
| 第8回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成） |
| 第9回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第10回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第11回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第12回 | 指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用） |
| 第13回 | 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用） |
| 第14回 | 乳幼児の安全な環境について |
| 第15回 | 保育内容における現代的課題や保育実践の動向、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60%）、定期試験（30%）

授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他必要があれば適宜紹介します。

科目名： <K0K07> 保育内容 - 環境 【発B】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

環境では、環境の内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

これらの学修を通して、学部の卒業認定・学位授与の方針の、教育・保育に必要な知識を実践と関連づけて理解するとともに、「実践力」を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション、領域『環境』の「ねらい」と「内容」の振り返り |
| 第2回 | 園の環境をデザインする（保育環境のデザインと物的環境） |
| 第3回 | 園の環境をデザインする（子どもの生活や遊びを豊かにする環境） |
| 第4回 | 園の環境をデザインする（室内環境を実際に作成する） |
| 第5回 | 社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際） |
| 第6回 | 指導形態とカリキュラム |
| 第7回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成） |
| 第8回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成） |
| 第9回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第10回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第11回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第12回 | 指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用） |
| 第13回 | 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用） |
| 第14回 | 乳幼児の安全な環境について |
| 第15回 | 保育内容における現代的課題や保育実践の動向、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60%）、定期試験（30%）

授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他必要があれば適宜紹介します。

科目名： <TISE3> 保育内容 - 言葉 【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解することをめざします。

【到達目標】

- ・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・言語習得過程を理解することができる。
- ・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
 - 第3回 言葉の育ちと環境（1）文脈としての経験の意味
 - 第4回 言葉の育ちと環境（2）三項関係と経験の共有化
 - 第5回 言葉の育ちと環境（3）メタ言語能力、メタコミュニケーション
 - 第6回 身体言語の意味
 - 第7回 好奇心・疑問と言葉（内言）
 - 第8回 見立て遊びと言葉
 - 第9回 絵本の中の言葉（ICT機器、教材の活用を含む）
 - 第10回 保育者の専門性と言葉
 - 第11回 言葉と保育指導計画（保育指導案の作成）
 - 第12回 言葉と環境構成
 - 第13回 言葉と保育実践（模擬授業）
 - 第14回 言葉と保育の評価
 - 第15回 総合的指導と言葉（生活科との関連）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。（2時間）
収集された語句や表現について、少なくとも3個以上を用いて文章を作成する。（2時間）

【成績の評価】

レポート（10%）、期末試験（80%）、授業への参加度（10%）
・課題（試験やレポート等）に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育方針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE3> 保育内容 - 言葉 【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解することをめざします。

【到達目標】

- ・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・言語習得過程を理解することができる。
- ・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
 - 第3回 言葉の育ちと環境(1) 文脈としての経験の意味
 - 第4回 言葉の育ちと環境(2) 三項関係と経験の共有化
 - 第5回 言葉の育ちと環境(3) メタ言語能力、メタコミュニケーション
 - 第6回 身体言語の意味
 - 第7回 好奇心・疑問と言葉(内言)
 - 第8回 見立て遊びと言葉
 - 第9回 絵本の中の言葉(ICT機器、教材の活用を含む)
 - 第10回 保育者の専門性と言葉
 - 第11回 言葉と保育指導計画(保育指導案の作成)
 - 第12回 言葉と環境構成
 - 第13回 言葉と保育実践(模擬授業)
 - 第14回 言葉と保育の評価
 - 第15回 総合的指導と言葉(生活科との関連)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。(2時間)
収集された語句や表現について、少なくとも3個以上を用いて文章を作成する。(2時間)

【成績の評価】

- レポート(10%)、期末試験(80%)、授業への参加度(10%)
- ・課題(試験やレポート等)に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』(ミネルヴァ書房、2010年)

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育方針(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： <TISE4> 保育内容 - 言葉 【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルを習得する。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の場とエピソードの意味
- 第3回 領域「言葉」についての意義
- 第4回 領域「言葉」のねらい
- 第5回 環境構成と保育の意図性
- 第6回 観察法と記録法の実際
- 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
- 第8回 保育の評価の意義と指導計画
- 第9回 童話の中の言葉
- 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
- 第11回 パネルシアターと言葉
- 第12回 パネルシアターの製作
- 第13回 絵本の製作
- 第14回 四季の行事と言葉 ひなまつり、こいのぼり等
- 第15回 総合的指導とは
定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

- レポート（10%）、期末試験（70%）、作品（20%）
- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE4> 保育内容 - 言葉 【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルを習得する。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の場とエピソードの意味
- 第3回 領域「言葉」についての意義
- 第4回 領域「言葉」のねらい
- 第5回 環境構成と保育の意図性
- 第6回 観察法と記録法の実際
- 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
- 第8回 保育の評価の意義と指導計画
- 第9回 童話の中の言葉
- 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
- 第11回 パネルシアターと言葉
- 第12回 パネルシアターの製作
- 第13回 絵本の製作
- 第14回 四季の行事と言葉 ひなまつり、こいのぼり等
- 第15回 総合的指導とは
定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

- レポート（10%）、期末試験（70%）、作品（20%）
- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <KIS02> 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられる。

今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にある。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得する。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成する。

なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれないが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色がある。そこで、0歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討する。

【到達目標】

1. 教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得することができる。
2. 教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
3. 教育の歴史や思想の学習をおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
4. 自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
5. 上の4つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・教育の意味と本質
 - 第2回：教育の目的と目標
 - 第3回：人間社会における教育の役割
 - 第4回：家族や社会における教育の思想と教育の役割
 - 第5回：主要な教育思想
 - 第6回：近代学校制度の成立と展開
 - 第7回：日本の学校教育の歴史
 - 第8回：義務教育の概要
 - 第9回：今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度
 - 第10回：教育課程の基礎
 - 第11回：学習指導の基礎
 - 第12回：家庭教育
 - 第13回：生涯学習
 - 第14回：教員養成
 - 第15回：今日の教育課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教育学原論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求める。その1つとして、授業終了時に、当該授業において授業後に復習すべきことを指示する。また、次回の授業に関する予習事項を指示する。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート（約30%）、レポート（約20%）、定期試験（約50%）の3つを以て、総合的に評価する。

- ・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントする。
- ・主たるレポート課題については、15回目の授業でフィードバックする。
- ・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックする。

【使用テキスト】

新初等教育原理（平成26年 佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介する。

科目名： <KIS04> 教師論

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教育は教師次第と言われます。それほど教師の役割が重要であることを示しています。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすればいいというように、教えるのは誰にでもできるよに思われています。そうでしょうか。

教師・保育者には、まず人間性（例えば豊かな心、コミュニケーション力、責任感など）が重要です。その上に専門性（例えば教育・保育の体系的知識や理論、教育や保育の実践力など）が特に求められます。さらに職業人としての教職・保育職の仕組み（職務、研修、サービス、チーム学校など）を理解していなければなりません。

本授業ではそれらをわかりやすく、かつ体系的に学びます。それらは本学部のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーにも含まれています。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育・保育問題、を思い起こしながら受講してください。また、講義形式を主としますが、グループ・ワーク（ディスカッション、まとめ、発表など）や小課題も取り入れますので、積極的に授業に参加してください。

。なお、ここで「教師」「先生」「教職」とは、幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めています。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下のことができるようになることです。

1. 受講生が教師・保育者、教職・保育職を具体的に理解し、それぞれの教師・保育者像を明確にでき、教職・保育職に対する情熱や使命感・倫理観を高める。
2. 具体的には、教師・保育者の人間性、専門性、職業人としての教師・保育者について理解でき、具体例をあげて、考えることや説明ができる。
3. そして教師・保育者をめぐる諸問題について疑問を持ち、教職・保育職についての知識や理解を深めることができ、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師・保育者の人間性	1) 歴史の中の教師・保育者
第3回	教師・保育者の人間性	2) 現代の教師・保育者像
第4回	教師・保育者の人間性	3) 人間として成長する教師・保育者
第5回	教師・保育者の人間性についてのグループ・ワーク	
第6回	(2) 教師・保育者の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第7回	教師・保育者の専門性	2) 現代に求められる専門性
第8回	教師・保育者の専門性	3) 校風の違いによる専門性
第9回	教師・保育者の専門性についてのグループ・ワーク	
第10回	(3) 職業人としての教師・保育者	1) 職務、身分
第11回	職業人としての教師・保育者	2) サービス規律
第12回	職業人としての教師・保育者	3) 勤務条件
第13回	職業人としての教師・保育者	4) 研修
第14回	職業人としての教師・保育者についてのグループ・ワーク	
第15回	(4) 教師・保育者の仕事 - 学習・あそびの指導、生活の指導、学級（保育室）経営、学校（園）経営、チーム学校への対応など -	

定期試験を実施する。

【授業時間外の学習】

授業後にノートや資料を復習し、疑問点や気付いた点などを赤で記入しておくこと（毎回1時間）。

人間性、専門性、職業人に関してグループワークを合計3回行うので、それに備えて各自で振り返りを行う（毎授業後1時間）とともに、グループによるディスカッション、調査、まとめ、発表などの準備を、時間外に行う必要がある（合計約30時間）。

【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況と試験を総合して評価します。比率は前者を20%、後者を80%と一応しておきますが、出来具合を見て調整することがあります。

試験についてのフィードバックは、試験終了後に解答例を配付します。

【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付します。

【参考文献】

- ・壺井 栄著 『二十四の瞳』（新潮文庫、昭和32年、角川文庫、昭和36年など）
 - ・佐竹勝利他編 『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）
 - ・秋山弥監修 『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）
 - ・佐々木司・三山緑編著 『これからの学校教育と教師 - 「失敗」から学ぶ教師論入門 - 』（ミネルヴァ書房、2014年）
 - ・榎沢良彦他編 『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）
 - ・古橋和夫編著 『新訂 教職入門』（萌文書林、2018年）
- その他

科目名： <KIS03> 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することからは難しいのでできれば避けて通りたい・・・と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。

・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション&教育制度を学ぶ意義
 - 第2回：教育法規の全体像
 - 第3回：学校制度とその課題
 - 第4回：教育行政制度とその課題
 - 第5回：教育財政制度とその課題
 - 第6回：教育課程行政
 - 第7回：学校経営の理論と実際
 - 第8回：学校経営における地域や保護者との連携
 - 第9回：幼児・児童の管理
 - 第10回：学校における安全管理
 - 第11回：教員養成制度
 - 第12回：特別支援教育制度
 - 第13回：学校を巡る社会状況の変化と学校の課題
 - 第14回：生涯学習社会に向けた教育制度の在り方
 - 第15回：我が国及び諸外国における教育事情と教育改革
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教育制度論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つとして、各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017
文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KOK02> 教育心理学
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていることに関わっています。教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わるに際し必要となる理論を紹介し、受講した学生が理論と教育実践と結びつけられることをめざします。

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：記憶（1）記憶のメカニズム
 - 第3回：記憶（2）効率的に覚えてられる指導
 - 第4回：学習（1）古典的条件づけと道具的条件づけによる学習のメカニズム
 - 第5回：学習の動機づけ（1）達成動機づけを高く保つ要因
 - 第6回：学習の動機づけ（2）学習の理由や目的が動機づけに及ぼす影響
 - 第7回：発達 遺伝と環境が発達に及ぼす影響
 - 第8回：知的能力の発達 IQとは何か
 - 第9回：人格の発達 発達段階における課題と性格特性
 - 第10回：発達障害の理解と支援
 - 第11回：学習指導の形態と効果
 - 第12回：教育評価の方法と効果
 - 第13回：学級における社会的構造
 - 第14回：学級の荒れと学級の特徴
 - 第15回：教育心理学を学ぶ意義
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの指定範囲を読み理解しておくこと、およびICTを利用した予習の確認問題を課す（2時間）。復習として、授業内容のまとめや授業で扱った理論を応用した実践を考えること、考えた実践についてディカッションすることを課す（2時間）。

【成績の評価】

各回の授業の最後に行う課題（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、定期試験（60%）の総合判断により行う。
授業内に実施する課題は次回授業時に解答のポイントを示すとともに受講学生の回答を全体で共有することによりフィードバックを行う。
定期試験の結果は採点基準と解答のポイントを研究室のドアに掲示し希望者にはオフィスアワーの際に個別対応して解説する。

【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2019）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

【参考文献】

- 大久保智生・牧郁子（2019）「教師として考えつづけるための教育心理学 多角的な視点から学校の現実を考える」（ナカニシヤ出版）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： < TOKU26 > 特別支援教育
担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

【授業の紹介】

特別の支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の理解を進めるための基本を講義し、学校等において支援するための教育内容・方法についての基本を学ぶ。そのために、特別な支援を必要とする児童・生徒の心理特性・発達特性を踏まえて、学級経営・授業づくり等の場面での指導方法とその背景にある教育課程の概要を講義する。具体的な実践事例も取り上げて、教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の国際的な背景や動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や個別の指導計画・教育支援計画の必要性・関係機関との連携等、特別支援教育に関する現代の課題にも触れる。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の生活・発達・学習における困難さ・個別のニーズを把握するための基本を理解することができる。
2. 特別な支援を必要とする児童・生徒が授業や学級活動に参加するために教師や学校組織等に必要な知識・支援方法・関係機関との連携のあり方の基本を理解することができる。
3. 特別な支援を必要とする児童・生徒とともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回:特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス
- 第2回:インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念・制度について
- 第3回:発達障害、知的障害のある児童・生徒の発達特性について
- 第4回:発達障害、知的障害のある児童・生徒の心理特性について
- 第5回:特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒の学習・発達における困難さについて
- 第6回:特別な支援を必要とする幼児の支援方法について
- 第7回:特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法について
- 第8回:教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけについて
- 第9回:「通級による指導」の内容について
- 第10回:「自立活動」の内容について
- 第11回:個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程について
- 第12回:個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法について
- 第13回:関係機関と連携して特別支援教育の体制を構築する意義について
- 第14回:母国語や貧困等の問題により特別なニーズのある児童・生徒の困難さと組織的対応について
- 第15回:インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向について

定期試験

【授業時間外の学習】

各授業で示す課題を授業時間外において学習して、次の授業時に提出するなどの復習・予習することが必要である(2時間)。授業で紹介した特別支援教育についての文献・実践記録等を検索して収集し、学習した結果を指定期日までに提出することが必要である(2時間)。

【成績の評価】

定期試験(80%)、いくつかの授業の区切りの最後に提出するレポート(20%)
提出されたレポートは、添削等のコメントをつけて返却する。また、定期試験においては採点基準を示して説明する。

【使用テキスト】

『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】

授業中適宜資料を配付する。

科目名： <KIS05>カリキュラム論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。そして、他教科の学びと関連付けて理解し、保育の実践力を構築していく力が身に付くことをめざします。また、保育の基本的理念を理解することを通して、保育者としての使命感、倫理観を育てていくこととなります。

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - (2) 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - (3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - (4) 教育課程の基礎理論の習得により保育の旨みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - (1) 教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - (2) 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - (3) 長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
 - (1) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - (2) カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | カリキュラムについて |
| 第2回 | 保育の基本と計画 |
| 第3回 | 幼稚園における教育課程の役割 |
| 第4回 | 保育所における全体的な計画 |
| 第5回 | 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画 |
| 第6回 | 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力 |
| 第7回 | 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 |
| 第8回 | 保育の評価 |
| 第9回 | カリキュラム・マネジメントの意義と実際 |
| 第10回 | 小学校へつなぐ保育と計画 |
| 第11回 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景 |
| 第12回 | 指導計画の実際(1) 指導計画の作成方法 |
| 第13回 | 指導計画の実際(2) 部分指導案の作成 |
| 第14回 | 指導計画の実際(3) 全日指導案の作成 |
| 第15回 | 指導計画立案の発表と評価 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておきます。(2時間)
- 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめます。(1時間) また、指導案作成の課題提出に向けて準備をします。(計15時間)
- その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりします。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（20％）、保育指導案作成（30％）定期試験(50％)

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： < TISE1 > 教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そこで、授業は、学習者の「主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニングの手法を用いて行います。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用を可能とする教育の方法と技術が修得できることをめざします。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. アクティブラーニングの手法を通して、新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 良い授業（保育）の調査からみる教育方法・技術 |
| 第2回 | 子どもの成長・発達における教育の役割 |
| 第3回 | 小学校学習指導要領（幼稚園教育要領）と「生きる力」 |
| 第4回 | 授業（保育）計画に伴う構成要素 |
| 第5回 | 指導（保育）技術に関する構成要素 |
| 第6回 | 教育（保育）目標と評価 |
| 第7回 | アクティブラーニング（遊びこむ保育）の有効性と限界 |
| 第8回 | ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性 |
| 第9回 | ICTを活用した学習（保育）指導案の作成 |
| 第10回 | ICTによるマルチメディア教材の作成 |
| 第11回 | ICTを活用した学習（保育）の成果の記録 |
| 第12回 | 情報社会の光と影・情報モラル |
| 第13回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（1）指導内容・方法 |
| 第14回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（2）人的環境他 |
| 第15回 | 教育の方法及び技術のまとめと展望等 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

以下の数字は授業回数、a.は予習内容、b.は復習内容、()内の数字は、およその時間を示す。

1. a. 人間に対する教育の必要性を文献(例、学問のすすめ他)やWebなどで調べる。自らの経験からよい保育・授業の条件を抽出する(2)。b. 人間の存在理由、及び教育の必要性、並びに良い授業の条件についてレポートにまとめる(2)。
2. a. 幼児期の段階的な成長・発達の特徴及びそれらと教育の役割等を、文献「例、認知発達」やWebなどから調べる(1.5)。b. 直観的思考、具体的操作、形式的操作等の各段階と教育の特徴についてまとめる(2.5)。
3. a. 文科省は、幼稚園及び小学校において学力をどの様に捉えているかを学習指導要領及び文献(例、教科書第1章)で調べる(2)。b. 内容の精選、新しい学力観、生きる力、自主的・対話的な深い学び(例、同第1章1(1))などの用語からまとめる(2)。
4. a. 小学2年生の算数「(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない筆算ができる」という目標で学習展開を想定しながら、指導過程の略案を作成する(1.5)。b. 授業(保育)は、教育目標、内容(学習材)、教師、子ども、教育メディア等の構成要素が融合したシステムとして、繰り上がりのある筆算の学習指導過程を作成する(2.5)。
5. a. 動機付け理論とは何かをWebで調べるとともに、質問に回答できなかった子どもに対する望ましい言葉掛けについて考える(1.5)。b. 授業における子どもの学習意欲を向上する指導(保育)技術について、動機付けとKR情報についてまとめる(2.5)。
6. a. 教育における評価の重要性について文献(例、教科書第7章)やWebから調べる(2)。b. 指導と評価の一体化(P-D-C-A)、授業中での評価、テスト得点による評価、数値によらない評価等についてまとめる(2)。
7. a. アクティブラーニング(AL)、フィンランドの教育、我が国のALの状況等について文献(例、教科書第3章)やWebで調べる(2)。b. 『わが国でALを円滑に導入するための条件を探る』という主題でまとめ、レポートを提出する(3)。
8. a. ICTの利用とその効果について、文献(例、教科書第6章)やWebから調べる(2)。b. Scratchによるプログラミング教育が導入される。その教育の目標をまとめるとともに、PowerPointによる情報の提示や調べ学習での活用についてまとめる(3)。
9. a. ICTを活用した学習指導案の作成方法を文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(1.5)。b. 小学校3年理科・社会の教科書から題材を選び、教科書の口絵・図表等をデータ化して教材化し、Wordソフトで学習指導案にまとめる(2.5)。
10. a. PowerPointソフトによる教育情報(学習材)の提示には、子どもたちの学習にとって、どのような長所及び短所があるかを文献(例、教科書)やWebで調べる(2)。b. このソフトでマルチメディア教材を制作するための絵コンテ(学習フローチャート)を作成する(2)。
11. a. ICTによる学習成果の記録についてどのような方法があるかを文献(例、教科書第6・5 ICT活用の今後の姿)やWebで調べる(1.5)。b. 学習過程を視覚情報として記録する方法が、e-ポートフォリオである。PowerPointの活用によりe-ポートフォリオ・モデルを作成する(2.5)。
12. a. 情報社会には様々な問題があることを文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(2)。b. 情報社会の利点及び問題点、特に学童期に指導しておきたい事項についてまとめる(3)。
13. a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための指導内容・方法に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した指導内容・方法に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(3)。
14. a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための人的環境等に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した人的環境等に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(2.5)。
15. a. 『AL教育を円滑に実施する条件』の結果を全体会で公表するためのプレゼン用予稿を作成する(2)。b. 『AL教育を円滑に実施するための条件を探る』の実践結果を小論文にまとめる。最後に、自己評価表(チェックリスト)によって評価をする(4)。

【成績の評価】

課題別レポート(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領(文部科学省、平成29年3月)
教育の方法と技術(田中俊也編、ナカニシヤ出版、平成29年10月)

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物(資料)を配布します。

科目名： < TISE12 > 幼児理解【発A】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 幼児理解の必要性
 - 第2回 保育における「幼児理解」 子どもを見る目
 - 第3回 幼児の発達や学びの理解
 - 第4回 幼児の遊びと幼児理解
 - 第5回 幼児理解を深める保育者の姿勢
 - 第6回 幼児理解に向けて～個と集団
 - 第7回 保育における「理解」と「援助」
 - 第8回 幼児理解と保育者の意図
 - 第9回 幼児理解の様々な方法
 - 第10回 幼児理解を深める「観察と記録」
 - 第11回 幼児のつまずきの理解とその対応
 - 第12回 気になる行動への保育者の対応
 - 第13回 子育て支援における幼児理解
 - 第14回 保護者への対応のロールプレイ
 - 第15回 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE12 > 幼児理解【発B】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 幼児理解の必要性 |
| 第2回 | 保育における「幼児理解」 子どもを見る目 |
| 第3回 | 幼児の発達や学びの理解 |
| 第4回 | 幼児の遊びと幼児理解 |
| 第5回 | 幼児理解を深める保育者の姿勢 |
| 第6回 | 幼児理解に向けて～個と集団 |
| 第7回 | 保育における「理解」と「援助」 |
| 第8回 | 幼児理解と保育者の意図 |
| 第9回 | 幼児理解の様々な方法 |
| 第10回 | 幼児理解を深める「観察と記録」 |
| 第11回 | 幼児のつまずきの理解とその対応 |
| 第12回 | 気になる行動への保育者の対応 |
| 第13回 | 子育て支援における幼児理解 |
| 第14回 | 保護者への対応のロールプレイ |
| 第15回 | 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <KOK03> 教育相談

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

教育相談は、幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠である。授業では発達段階に即しつつ、個々の特性や課題を適切に捉えるための基礎的知識や、保護者や関係機関と連携して幼児・児童を支援するために必要な知識を身につける。また、複雑化する教育相談に関する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて体験的な活動も取り入れ、子どもの心理的成長を支える予防的援助について学習する。

【到達目標】

到達目標は以下の4点である。

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することができる。
4. 学校での生徒に対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 教育相談とは
- 第2回 児童生徒理解のための心理学
- 第3回 アセスメント
- 第4回 カウンセリング
- 第5回 コンサルテーション
- 第6回 ソーシャルスキル教育
- 第7回 ストレスマネジメント教育
- 第8回 キャリア教育
- 第9回 不登校
- 第10回 いじめ
- 第11回 発達障害
- 第12回 学校の危機管理
- 第13回 学級経営によるこどもの援助
- 第14回 Q-Uと構成的グループエンカウンター
- 第15回 学校教育と教育相談

定期試験

【授業時間外の学習】

指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。(毎回2時間)
内容についての小レポートを毎回課すので復習をし、まとめて提出すること。(毎回2時間)

【成績の評価】

学期末試験(80%)と小レポート(20%)

【使用テキスト】

授業時間中に資料を配布する。

【参考文献】

- 絶対役立つ教育相談(2017年10月 藤田哲也監修 ミネルヴァ書房)
- 生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省 教育図書)
- 初めて学ぶ教職 教育相談(2019年3月 吉田武男監修 ミネルヴァ書房)
- 新訂版 学校教育相談入門(2014年5月 有村久春 金子書房)

科目名： < JISS5 > 教育実習事前事後指導 【幼】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。保育・教育に携わる者として豊かな人間性を養うよう努めていきましょう。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
 2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
 3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
- 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要 |
| 第3回 | 保育実践の要件 |
| 第4回 | 保育を計画する 部分実習 |
| 第5回 | 保育を計画する 研究保育 |
| 第6回 | 保育の実践 |
| 第7回 | 実習日誌の実際 |
| 第8回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第9回 | 教育実習の振り返り |
| 第10回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第11回 | 幼児同士のトラブルの対応 (事例研究) |
| 第12回 | 実習日誌の作成 |
| 第13回 | 教育実習に向けて |
| 第14回 | 指導計画の作成 - 日案 |
| 第15回 | 保育の実践 研究保育 |
| 第16回 | 保育の実践 全日保育 |
| 第17回 | 教育実習の振り返り |
| 第18回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第19回 | 教育実習報告会に向けて |
| 第20回 | 教育実習報告会 |
| 第21回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第22回 | 幼児理解と援助 (事例研究) |
| 第23回 | まとめと今後の課題 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(各1時間)

部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出します。(10時間)
また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。(10時間)

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ(50%)、実習レポート(50%)

なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： < JISS6 > 教育実習事前事後指導 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行う。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざす。2年次に履修した「学校支援ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにする。

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要・心得・態度等 |
| 第3回 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 |
| 第4回 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 |
| 第5回 | 各種トラブル等の具体的解決策 |
| 第6回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第7回 | 教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ |
| 第8回 | 指導計画・事例研究 |
| 第9回 | 模擬授業のあり方 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（日誌の整理） |
| 第11回 | 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状） |
| 第12回 | 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成） |
| 第13回 | 教育実習報告会に向けて（印刷、製本） |
| 第14回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第15回 | 自己評価と今後の課題について |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、指導案作成時間として毎回1時間程度は、作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： <JISS7>教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 第1週 | 1 | 実習園の概要を知る |
| | 2 | 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 | 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 | 発達特性により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る |
| | 5 | 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 | 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| | 7 | 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| 第2週 | 1 | 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 | 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 | いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 | 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 | 部分実習をする |
| | 6 | 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 | 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）

毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： < JISS8 > 教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
教育実習は、教育実習の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【到達目標】

- (1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。
幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
学級担任の補助的な役割を担うことができる。
- (2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。
様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 第1週 | 1 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかり方を知る |
| | 5 季節の行事に関するの保育を知る |
| | 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| | 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| 第2週 | 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 実習反省会・お別れ会 |
| | 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）
事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。
実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS10> 教育実習 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。
教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていく。また、カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすとともに、教室での学びを教育実践と関連づけて理解することをめざす。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進める。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
 - 第2回：指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
 - 第3回：学級の実態と学級経営
 - 第4回：指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
 - 第5回：指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
 - 第6回：指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
 - 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
 - 第8回：指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
 - 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等）
 - 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動）
 - 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動）
 - 第12回：授業研究（選択した教科の学習指導案の作成）
 - 第13回：授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成）
 - 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
 - 第15回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第16回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第17回：研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価
 - 第18回：研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価
 - 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
 - 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理
- 以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。
気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(令和2年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： < KYOU17 > 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 田中 美季(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 徳岡 大(TOKUOKA Masaru), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。保育所、幼稚園等の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
- (4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることをめざす。

【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|--|------|
| 第1回 | オリエンテーション・保育職を取り巻く現代の問題
本演習の目的と進め方 | 演習 |
| 第2回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)
教員や保育士に求められるマナーや社会性(講義) | 模擬面接 |
| 第3回 | 保育者に必要な危機管理対応
講義 | 演習 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)
講義 | 演習 |
| 第5回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)
講義 | 演習 |
| 第6回 | 保育内容の指導力に関する事項(1)
造形表現に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第7回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)
講義 | 演習 |
| 第8回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1)
特別な支援を必要とする乳幼児の理解(講義) | 演習 |
| 第9回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2)
乳幼児の保護者との懇談 | 演習 |
| 第10回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3)
講義 | 演習 |
| 第11回 | 保育内容の指導力に関する事項(2)
健康に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第12回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3)
講義 | 演習 |
| 第13回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)
保育者の対人能力(講義と演習) | |
| 第14回 | 保育内容の指導力に関する事項(3)
音楽表現に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第15回 | 保育職に求められる資質・能力
総括 | 演習 |

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及びテキスト・資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。(1時間)

復習：授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。また、各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、指定期日までに提出します。(1時間)

【成績の評価】

受講状況（20%）、毎回のワークシート・課題についてのまとめ（80%）によって、総合的に評価します。

提出されたワークシートや課題は次回以降の授業時に返却します。教員からの講評を受けることでフィードバックを行います。

本授業の意義と役割に鑑み、無断欠席は認められません。また、たとえ、欠席であっても、毎回のワークシート、課題の提出が必要です。未提出の場合は単位が出ません。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <JISS1> 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本学の特色の一つである実践力は直接保育現場に向いての継続的長期的観察により、子どもと生活を共にする中で、園生活の様子や子どもの実態を体感することです。

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、書物で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深まります。また、理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学びます。

【到達目標】

- ・幼稚園での観察・参加を通して、子供理解を深め保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得することができる。
- ・子ども達とどのようにかかわり、そのかかわりのどこをどのように観て記録するかについて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回～第2回 オリエンテーション（観察・参加の意義）
 - 第3回 参加実習 の意義・目的・形態・内容・方法（その1）
 - 第4回 参加実習 の意義・目的・形態・内容・方法（その2）
 - 第5回 実習の心得・態度（その1） 幼児とのかかわり
 - 第6回 実習の心得・態度（その2） 保育者とのかかわり
 - 第7回～第8回 観察園の概要について知る
 - 第9回～第10回 観察記録のとり方
 - 第11回～第12回 観察の視点1・園の生活のリズムを理解する
 - 第13回～第14回 同上
 - 第15回～第16回 観察の視点2・子どもと保育者の在り方
 - 第17回～第18回 同上
 - 第19回～第20回 観察の視点3・年齢への着目（3歳児の生活）
 - 第21回～第22回 同上（4歳児の生活）
 - 第23回～第24回 同上（5歳児の生活）
 - 第25回～第26回 観察の視点4・保育室・園庭の遊具と環境整理（安全管理）
 - 第27回～第28回 心に残った子どもの記録
 - 第29回～第30回 まとめ・参加実習 で学んだこと
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して観察・参加に臨むこと。（2時間）観察結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく客観と主観を重ねた保育観察記録を、次週までに仕上げ提出する。（2時間）

【成績の評価】

- ・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版]（2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他（編））

科目名： < JISS2 > 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

この授業は観察参加 に続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び取っていきます。

【到達目標】

- ・子どもの特性や発達への理解を深め、保育活動に必要な知識技能を修めることができる。
- ・教育実習に向けて継続的に学ぶ態度を身に付け、保育指導の計画立案能力を試みることができる。

【授業計画】

第1回～第2回 オリエンテーション
第3回～第4回 観察の視点・教師の役割について
第5回～第6回 同上
第7回～第8回 同上
第9回～第10回 配属クラスの観察
第11回～第12回 子どもの名前を覚えよう
第13回～第14回 その子らしさを感じよう
第15回～第16回 子どもの遊びに参加する
第17回～第18回 3歳児と話したり遊んだりする
第19回～第20回 4歳児と話したり遊んだりする
第21回～第22回 5歳児と話したり遊んだりする
第23回～第24回 環境構成の実際について
第25回～第26回 子ども同士のトラブルについて
第27回～第28回 生活指導への参加とそのポイント
第29回～第30回 まとめ・参加実習 で学んだこと
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して授業（観察参加）に臨む。（2時間）
- ・観察結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身につける。（2時間）
- ・日常的に子どもの言動に注意し、「子どもらしさ、子どもならではの...等」の気づきにメモをとる習慣をつけ、観察眼を生活の中で養う。

【成績の評価】

- ・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] (2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

科目名： < TISE5 > 国語（書写を含む）

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。

卒業認定・学位授与方針の「主体的に生きる力」や「課題に気づいて解決する力」の育成に関わる以下のような内容としています。

○小学校や幼稚園などで国語教育にあたるための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。

○学生が自ら主体的に取り組むアクティブラーニングの手法を取り入れた授業活動の中で、宮沢賢治の各種作品や小学校・中学校の教科書に掲載されている様々な教材の詳細な読解を通じて「国語」の指導力を高めめます。

○授業活動を通じて、今後の社会で特に必要とされる文章や情報を正確に読み解き対話する力や科学的に思考・吟味する力を養います。

○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

【到達目標】

この授業の到達目標は、発達科学部の教育課程編成・実施の方針の「教育に関する研究能力を涵養」するとともに「主体的な学びの姿勢を形成」し、「論理的に判断し、それを適切な方法で表現する能力の獲得を図るため、以下のように設定しています。

1. 学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な「国語」を適切に表現し、正確に理解する力をつけることができます。

2. 学生が、「国語」を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力をつけることができます。

3. 学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、継続的に学び、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【授業計画】

第1回：学習指導要領と「国語」の意義について

第2回：宮沢賢治について・作品『やまなし』読解

第3回：作品『やまなし』読解

第4回：作品『やまなし』読解

第5回：様々な表現技術について（文学作品の分野）

第6回：様々な表現技術について（詩）

第7回：様々な表現技術について（短歌）

第8回：様々な表現技術について（修辞法）

第9回：様々な表現技術について（漢詩）（修辞法のいろいろ）

第10回：作品『注文の多い料理店』読解

第11回：作品『注文の多い料理店』読解

第12回：意見交換・表現について

第13回：作品『なめとこ山の熊』読解

第14回：作品『なめとこ山の熊』読解

第15回：これまでの読解・表現・書写についての整理

なお、書写については毎時間の冒頭に練習します。

定期試験

【授業時間外の学習】

○予習として、事前配布の資料を辞書や図書館の資料、WEBなどで調べ、内容を確認しておくこと。（2時間）

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。（2時間）

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況を評価します。

2. 授業に対する取り組み姿勢を評価します。

3. 1 + 2（30%）と期末考査の結果（70%）を合わせて総合的に評価します。

なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○自作資料集

○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（宮沢賢治著）

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <TISE9> 生活

担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。教育現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科教育の目標や内容、創設の背景、現状や課題などを把握し、その在り方を考える学習を通して、現在の学校教育についての認識を深めます。また、地域のフィールドワークやものづくり、討論、思考ツールの活用などの体験的な学習を通じて、生活科と他教科との関連、幼児教育との接続などに気付き、関心・意欲や技能など実践力を高めていくようにします。

【到達目標】

1. 生活科の目標や内容、創設の背景を理解するとともに、フィールドワークやものづくり、討論などを通して体験的に学び、教育実践のあり方について考えを深めることができる。
2. 学習指導要領や生活科にかかわる学習論の学びを通して、児童主体の教育方法の理解を深め、教育・保育について学ぶための資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、学校現場の生活科教育の現状
 - 第2回 生活科の目標・内容とその意味（グループワーク）
 - 第3回 生活科の課題と学習指導要領の改訂（ディスカッション）
 - 第4回 生活科の特色と教育的意義（ディスカッション）
 - 第5回 生活科の内容と体験活動「思考ツールの活用」（グループワーク）
 - 第6回 生活科の内容と体験活動「自然探索フィールドワーク」
 - 第7回 生活科の内容と体験活動「自然のものづくり」（制作）
 - 第8回 生活科の創設と時代的背景（グループワーク）
 - 第9回 生活科の教育理念（グループワーク）
 - 第10回 生活科の内容と体験活動「動くおもちゃ作り」（制作）
 - 第11回 生活科と他教科とのかかわり（グループワーク）
 - 第12回 生活科と見方・考え方、資質・能力（ディスカッション）
 - 第13回 生活科と総合的な学習（グループワーク）
 - 第14回 生活科と幼児教育との連携（グループワーク）
 - 第15回 まとめ、小学校教育における生活科の役割と期待
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- 日常での学内や春日川周辺の自然探索と記録（フィールドワーク）（1時間）
- フィールドワークやものづくりに必要な用具・材料の準備（2時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト2回(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、小テストについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書 「あたらしいせいかつ(上),新しい生活(下)」 東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： <KIS08> 子ども家庭支援論

担当教員： 伊達 ルミ

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。こども園の現場での家庭支援の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
子ども家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。その上で、保育所・こども園・幼稚園を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

【到達目標】

1. 学生は、子育て家庭への支援者としての教育・保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
2. 学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども家庭支援の必要性
 - 第2回 子ども家庭支援の目的
 - 第3回 子育て支援政策
 - 第4回 社会資源について
 - 第5回 専門性を活かした家庭支援
 - 第6回 子どもの育ちの喜びの共有
 - 第7回 子育て支援に求められるもの
 - 第8回 家庭支援の基本態度
 - 第9回 家庭の状況に応じた支援
 - 第10回 社会資源の活用
 - 第11回 さまざまな子ども家庭支援
 - 第12回 保育所保育指針等と子ども家庭支援
 - 第13回 地域の子育て家庭への支援
 - 第14回 要保護児童家庭への支援
 - 第15回 今後の家庭支援のあり方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として2時間、本授業に関連する保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領を確認しておいてください分からない言葉は、調べ、ノートにまとめておいてください。また、復習としては、3時間、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出（30%）、レポート（10%）、定期試験（60%）の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

【使用テキスト】

- ・新 基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論（2019年 松原康雄、村田典子、南野奈津子）中央法規出版
- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

実践 家庭支援論【第3版】（2019年 松本園子、永田陽子、福川須美、森和子著 ななみ書房）
MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉4 子ども家庭支援（2020年 倉石哲也、伊藤嘉余子）

科目名： <KARA7> 子どもの健康と安全【発A】

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),小川 佳代(OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の中でも「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」の育成に関わっています。指針・要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して参考資料などを配布する。

- 第1回：保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握（担当：小川）
 - 第2回：乳幼児の身体計測と評価の実際（担当：小川）
 - 第3回：子どもの保健と保育の環境（担当：小川）
 - 第4回：乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)（担当：小川）
 - 第5回：乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)（担当：小川）
 - 第6回：乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)（担当：小川）
 - 第7回：体調不良や障害発生時の対応(一般看護、包帯法など)（担当：小川）
 - 第8回：健康・安全管理の実際(衛生管理、事故防止及び安全対策)（担当：磯部）
 - 第9回：災害への備えと危機管理（担当：磯部）
 - 第10回：子どもの応急処置（担当：磯部）
 - 第11回：子どもの救急処置及び救急蘇生法（担当：磯部）
 - 第12回：感染症対策(担当：磯部)
 - 第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー等)（担当：磯部）
 - 第14回：健康安全管理の実施体制(母子保健・地域保健と保育及び地域との連携)（担当：磯部）
 - 第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答（担当：磯部）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上）

【成績の評価】

学習態度（10%）、演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』（中央法規、2019年）

【参考文献】

子どもの保健（2019年 松田博雄、金森三枝 編集、中央法規）
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社）

科目名： <KARA7> 子どもの健康と安全【発B】

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),小川 佳代(OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の中でも「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」の育成に関わっています。指針・要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

この授業では、Google Classroomを利用して参考資料などを配布する。

- 第1回：保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握（担当：小川）
 - 第2回：乳幼児の身体計測と評価の実際（担当：小川）
 - 第3回：子どもの保健と保育の環境（担当：小川）
 - 第4回：乳幼児の養護(3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換)（担当：小川）
 - 第5回：乳幼児の養護(3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食)（担当：小川）
 - 第6回：乳幼児の養護(特に3歳未満児の乳幼児の清潔)（担当：小川）
 - 第7回：体調不良や障害発生時の対応(一般看護、包帯法など)（担当：小川）
 - 第8回：健康・安全管理の実際(衛生管理、事故防止及び安全対策)（担当：磯部）
 - 第9回：災害への備えと危機管理（担当：磯部）
 - 第10回：子どもの応急処置（担当：磯部）
 - 第11回：子どもの救急処置及び救急蘇生法（担当：磯部）
 - 第12回：感染症対策(担当：磯部)
 - 第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー等)（担当：磯部）
 - 第14回：健康安全管理の実施体制(母子保健・地域保健と保育及び地域との連携)（担当：磯部）
 - 第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答（担当：磯部）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上）

【成績の評価】

学習態度（10%）、演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝 編集『子どもの健康と安全』（中央法規、2019年）

【参考文献】

子どもの保健（2019年 松田博雄、金森三枝 編集、中央法規）
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社）